

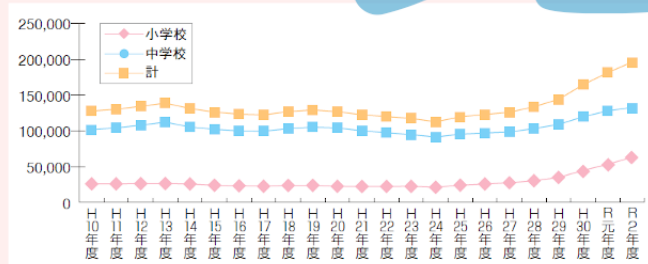
## 4 不登校

不登校の要因・背景は多様で複雑です。いじめや教師の体罰、抑圧的な管理、授業についていけないなど学校生活に起因するものや、家庭内不和、生活の急激な変化、虐待など家庭生活に起因するものなどが挙げられます。不登校の子どもに対する理解と支援が必要です。

また、不登校の状態にある子どもに対し、親や教師が無理やり学校に行かせようとして、言葉や実力行使で、精神的・肉体的苦痛を与えることも問題です。

不登校という行動そのものは「問題行動」ではなくさまざまな要因の結果であることを理解し、「学校に登校する」ことのみを目標とするのではなく、さまざまな関係機関等の活用も含め、本人が自ら社会的自立に向かうよう支援していくことが重要です。

不登校児童生徒数の推移



出典：文部科学省「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」から作成

## 5 児童ポルノとインターネット

児童ポルノとは、児童の性被害・性的虐待を記録したものです。成人と同じような善悪の判断ができない子どもを狙った児童買春などによって作成されたり、保護者が販売を目的に作成したり、子どもが他人から注目されることを目的に自ら作成したものなどがあります。

現在、その多くがスマートフォンを使用して作成され、インターネット上に流出しています。一度流出してしまうと全てを削除することは非常に困難であり、被害者である子どもの苦しみは、将来にわたって続きます。

子どもの心身に有害な影響を及ぼす児童ポルノを製造・保存・閲覧・配布する行為は、子どもの人権を著しく侵害する行為で、決して許されるものではありません。

日本の現状を見ると、児童ポルノ事犯の検挙件数、検挙人員及び被害児童数は、いずれも増加傾向にあります。

子どもがSNSやインターネット上のコミュニティサイトを利用することがきっかけとなって児童ポルノが製造されるケースもあることから、家庭では、子どもがインターネットを安全・安心に利用できるようフィルタリングを利用したり、学校においてはインターネットを悪用した人権侵害などについての教育・啓発を行うなど、大人が子どもを被害者にさせないようさまざまな対策に取り組むことが重要です。